

鹿大教職組ニュース

Tel. 099-285-7285, Fax:099-285-7286, e-mail. ka-kumiai@leaf.ocn.ne.jp

2018 年度中央執行委員長挨拶	1
定期大会ご報告（中央執行委員名簿、活動方針）	1、2
学習会のご案内	2

Qちゃんの回想 —海藻かもしれない（ラスプーチンかも）—

～ 委員長挨拶にかえて ～

どうもです、Qちゃんです。

この「どうもです、Qちゃんです」で書き出し「でわ、どうもでした」で閉じる軽薄な口語体でデビューしたのは1994年の頃だったかなあ？

全学書記長になったのが1996年、このとき、中執内にも根強い反対が残ったまま半ば強引に学長候補者立会演説&討論会を初めて開催したり、まだ事務方も使っていないのに「これからはインターネットだ」と組合部屋へ当局に情報コンセント引かせてベテラン専従（笹川さん）に電子メール使わせたり、「従来の資料は分らん」と決算報告書の形式を変えたり、いま思えば色々やらかして皆様にはご心配とご迷惑をおかけしました。2001年、鹿大で開催された全国教研集会ではヒラ中執として宴会部長を仰せ付かり交流会を取り仕切りましたが、これは当時の書記長にうまく使われちゃったと言わざるを得ないでしょう。書記次長として人事課長と散々やりあって国立大学法人唯一ボーナス減額阻止を勝ち取ったのが2009年でした（これは自慢していいよね）。

デビュー当時から全く成長しないまま無駄に歳をとり来年還暦を迎えるヤンチャ坊主がこのたび全学委員長を仰せつかりましたQちゃんこと青山究と申します。

組合活動以外でも学友会の正常化や、コンピュータやインターネットの専門家と間違われて、各学部責任集計の入試成績集計システム（現在は解消しております）、共通教育の教務事務電子化と証明書自動発行機の導入、職員証・学生証のICカード化と門のゲート化など、散々やらかして全学的に多大なるご心配とご迷惑をおかけし続けてまいりました。もちろん、これらは一人でできるわけもなく、たくさんの方々と共に作り上げ、あるいは戦ってきた結果ですが、その戦友（共犯者？）達もたいぶ定年退職されキャンパスですれ違う事もなくなり、もう自分の時代ではなくなったなあ、若い人たちに任せなきゃなあと思う今日この頃でございます。

これが組合への最後のご奉公と思ひ任務を全うしたいと存じます。具体的なお仕事は書記長を中心とする私以外の中執委員にお任せし、私は各種イベントの冒頭挨拶くらいでご勘弁頂いて、邪魔せず無事に次期執行部へバトンタッチできたらと存じます。組合員、非組合員の皆さま方におかれましては中執や組合へのご理解、ご協力、ご支援、ご指導、ご鞭撻を賜り組合活動を盛り立てて頂きますよう伏してよろしくお願い申し上げます。

1年間よろしく～。 (^_^) でわ、どうもでした。

（中央執行委員長 青山 究）

定期大会ご報告

去る6月29日（金）農学部・共同獣医学部共通棟101講義室において2018年度の定期大会が開催されました。議長に、理学部支部の西田詩氏が選出され、2017年委員長の挨拶のあと、第1号議案から7号議案までが審議、了承されました。本ニュースではそのうち、新委員の名簿と、活動方針を掲載します。

役職名	氏名	支部	役職名	氏名	支部
委員長	青山 究	理	副委員長	一谷 勝之	農獣医
書記長	丹羽 謙治	法文	書記次長	小林 善仁	法文
委員	齋藤美保子	教育	委員	久米 元	水産
委員	山本 一哉	法文	委員	小櫃 邦夫	理
委員	肥山 浩樹	農獣医	委員	山口 泰平	桜ヶ丘
会計監査委員	山本 啓司	理	外部会計監査委員	野崎 啓介	税理士

鹿児島大学教職員組合 2018年度活動方針

国政はもとより学内でも、改革の名のもとに議論は尽くされないまま制度の改変がなされていく、また、改革を行う者が説明責任を果たさないままに専断して結果だけを押し付ける事態が常態化している。こうした在り方は、働く者に将来への不安を抱かせ、ひいては社会や組織の劣化をもたらす。また、一方で勝者（勝ち組）と敗者（負け組）を生み出す競争社会は、個人間の意思疎通を滞らせ、対立や無視などより深刻な事態へと進んでいく可能性を孕んでいる。このような流れを食い止めるために、教職員組合に何ができるのか。学長の交代が行われる本年度は、組合の原点に立ち帰り、「働く」場としての鹿児島大学をもう一度見直す年度と位置付けて活動を行っていききたい。

1. 労働条件および労働環境の改善・向上

安倍内閣が掲げる「働き方改革」に象徴される労働問題および報酬や退職金の減額の問題は、世代を問わず、専任・非常勤に関わりなく喫緊の問題であり自分たちの問題として考える必要がある。それを象徴する問題として「雇止め」の問題がある。当局は人件費の節約に絡めて改善を拒否する姿勢を見せているが、他大学で実現されている「無期転換」が鹿大でなぜできないのか、法律に則った改善が行われるよう粘り強く要求していく。この他、学内では死亡や休職と結びつく特定の教職員への過重労働問題、昇任や配置転換の不平等の問題、各種ハラスメントの問題、改組やカリキュラム改革等に伴う業務のさらなる繁忙化の問題など、重要な問題が数多く存在する。これらの課題のうち、「人権」に関わる不平等やハラスメントの問題には特に力を入れていく。

2. 大学の民主的運営と学長選への対応

2018年度は学長が交代する時期に当たり、新旧の執行部と交渉を行うことになることに鑑み、民主的な運営を行う候補を見極めるために、候補者の情報公開が適切な形で

なされるよう公開質問状を候補者に送り回答を求めるとともに、候補者による公開討論会を開催する。学長のリーダーシップの名のもとに、ひとにぎりの幹部が策定した案をトップダウンの形でその履行を押しつけるケースが多発している。こうした運営のしかたでは、教授会等で意見を述べる意欲が失われ、会議の形骸化が起り、人員の削減による過重な業務負担と相俟って研究や教育の質の低下にも繋がっていく「負のスパイラル」を惹き起こしつつあるのが現状である。執行部に対しては、教職員が研究や教育に能力を集中できるようにする真のリーダーシップを強く求めるとともに、新旧それぞれの執行部との団体交渉を行って、上記の問題について改善を求め続けていく。

3. 組合組織の維持・拡大と信頼の回復

前々年度および前年度執行部の尽力により、いわゆる「不適切会計処理問題」は一段落した。この問題については、組合員の組合に対する信頼を損ねたという事実は否定しようがない。信頼の回復を図るとともに、組合の存在意義をアピールできるよう地道な努力を払っていく必要がある。組合の運営や活動に関してすみやかに情報を公開することに努める。学内の山積する諸問題について組合がどのように取り組んでいるかを内外に示すため、『組合ニュース』や組合ホームページを活用して組合活動についての積極的な情報発信を行う。組合員の経済的負担の軽減を模索するとともに、各支部と協力して未加入者へ勧誘をすすめる、また、直属部の体制整備を含む事務職員への働きかけを行うなどの活動を行っていく。学習会については、支部と共同で開催するなど、協力しながら効率的な運営を模索する。

(書記長 丹羽 謙治)

■お詫び■

今回の定期大会では、出席予定の代議員の欠席や委任状の未着により、大会の成立に遅れがでたことにつきまして、参加者の皆さんに大変ご迷惑をお掛けいたしました。心よりお詫び申し上げます。今後、中執と代議員との連絡を密にしてこのような事態に陥らないようにしたいと思います。

「働き方改革について」講演のご案内

日時：8月23日（木）18時開始予定

講師：伊藤 周平先生（法文学部法経社会科学法学コース教授）

場所など詳細は追ってご案内いたします。ぜひお越しください！